

住まい

私記

神奈川県逗子市の住宅街に「手作り」の家がある。村野邦亮さん(33)、裕子さん(34)夫妻が会社勤めのかたわら、一から工具をそろえて完成させた本格的な一軒家だ。

「自分たちで家を建ててみたい？」と妻が提案してきたのは、賃貸暮らしを卒業したいなと思っていた3年ほど前のことでした。サポートしてくれる業者を近所で見つけ、興味を持ったというのです。基礎や外壁、屋根の施工、電気・水道関係はプロにおまかせ。あとの内装な

趣味と暮らす¹²

▼白い囲いと青い空に映える自慢の外観。壁は塗料を3度塗り重ねた写真左。2階のリビングは吹き抜けで、開放感は抜群。天井の板を張る作業は、暑さとのたたかいだったという＝同右



どを自分でやる「ハーフビルド」という手法です。最初は出来るわけがないと思いましたが、妻は小学校の工作の

授業以来、のこぎりさえ握ったことがないと言うし、私だって、本格的な日曜大工の経験はありません。それでも、建築費

夫婦で週末大工 内装手作り

を1千万円近く抑えられることや、初のマイホームを手作りできるのが魅力でした。部材を手配してくれるし、途中で投げ出した人もいないといいます。基礎や構造は10年保証。不具合が出た際の保険も使えるとのこと

で、背中を押されました。妻の実家近くに33坪の土地を

購入。平日は2人とも仕事なので、土日に通いで家づくりをしました。まずは外壁材のペンキ塗り。朝から夕方まで夢中で塗り、2カ月で終わりました。

次に内装。まずプロの職人さんが実演してくれます。技やコツをここで学びました。断熱材や天井板を張り、キッチンを組み立て、窓の縁をつける。作業をこなすにつれ、腕が上がっていくのがわかり、物作りの楽しさを味わえます。床張りを終え、ネットを取り寄せた照明を

付け、ようやく住めるようになるまで、1年半かかりました。力になってくれたのは隣町に住む父。作業台を手作りしてくれたり、工具の使い方を教えてくれたり。古い実家をコツコツ直していたのは見ていましたが、まさかこんなに知識と技術を持っているなんて。親子の会話が増えました。

住み始めてから1年半。不具合もなく快適そのものです。外壁、床から天井まで、すべて自分好みの色を自分たちで塗り張りした世界でただ一つの家。愛着の強さは、誰にも負けないでしょうね。実はまだ、作業が残っている部屋が一つあります。ここは将来の子ども部屋。腕をふるうのが楽しみです。

（聞き手・斎藤健一郎）
次回からは「味わいリフォーム」です。